



定価 一冊 一角五銭  
廣告料 五銭 十二字 一行 金五銭  
日曜 祭日の翌日 休刊  
発行所 常警日新新聞社  
印刷所 常警日新印刷株式会社

### 戊辰役の回顧

平陽 老人

#### 三、棚倉及び白河の戦

六月二十四日西軍七百人白河を發し將に棚倉城を襲はんとし、兵を分ちて二となし一は關山より進み、一は郷戸村西白河郡金山村に向ひ、進みて東軍の壘壁を襲ふ。棚倉口の我が軍、棚倉、相馬兵等豫め郷戸村の切通に胸壁を築きて之に據る。西兵三面より之を攻め新に兵を更ふること數次、我が兵支へず退いて金山の壘に據る、既にして西兵森林の徑路を廻りて金山の背を衝き、我が兵守る能はずして棚倉に退く、棚倉、相馬の兵我が兵と共に死傷多し。西兵郷戸、金山を破りて追撃棚倉城に迫る、城中兵少きを以て出で、逆川河岸の壘壁に據り奮闘す、西

#### ノード

瀬戸物や硝子器は用ひ始める前に水から入れてよく煮沸して用ひると丈夫になる

軍突撃する者潮の如く、東軍衆寡敵せず、火を城に放ちて釜子に奔る、我が軍は須賀川に、仙臺、相馬の兵は笹川に退き相馬兵は遂に



あきくさ 高砂松麿  
ゆふぐれの丘にひとりし  
しみじみとあきくさを噛めば

こころはまるで新月のやうに  
ほつそりと冴えてきます

あきくさにまろべば  
あきくさはそうとうと鳴つて

あきくさを抜いて  
はつと指をきりました

あきくさの理性のするどさ

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

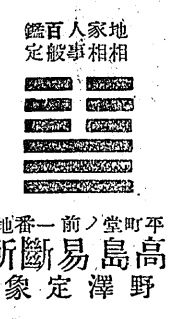
あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて

あきくさを抜いて



九月八日丁丑八白先勝収  
【一白】我が望事達せんとする緒を得る吉日なれば猛進する勿れ東西凶【二黒】病氣怪俄紛失盜難の起る凶日なれば萬事に注意未申と丑寅凶【三碧】勞して功なくも不平を起す勿れ後日信を得ればなり南北凶【四緑】營業上吉利然し水火の離に注意南北凶【五黄】病氣怪俄紛失盜難に注意すべし未申丑寅が凶【六白】縁談金談望事等萬事吉東西が凶【七赤】金談望事共に他人の應援を得て吉利あり戌亥と辰巳凶【八白】新古の事件で纏れを讓す凶日なれば萬事控目吉【九紫】我が望事に付て大利を得る日遠行も吉戌亥と辰巳は凶なり

玉屋洋品店  
平町田町通電話六五六番

外科 X 光線科  
性病科  
科  
意 隨 院 入

平町田町  
安齊外科醫院  
電話四七五番

耳鼻咽喉科専門  
氣管食道科  
平南町 (電話一七〇番)  
大和田醫院

正木織物店ノ生命也  
絹織物ノ正木織物店へ  
開業三十五週年を祝するため  
二割引にて大々の勉強御註文に應ず

御註文ノ時ハ(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス  
平町宇新町貳十貳番(公園下)

白生地 正木織物店  
賃織販賣

小兒科。内科  
特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。

平町 ねずみ坂  
滯留 渡邊醫院  
電話一六一番

貸切の御用命は!!!  
獅子吼(四四九)ノ勢デ  
眞先ニ……(マツサキ)  
三九二タクシーへ!!!

看護婦急派  
の求めに應じます

平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

新 出賣節鯉

魚問屋  
店理代平命生本日本最大最優最  
榮 盛 賀 志  
(三一電) 目丁四平

# 精銳 一百一名

### 参加申込みの締切

## 郡下青年體育大會

既報警中グラウンドに於て開催される石城聯合青年團體育大會は愈々三日後に迫り之が出場申込みは昨日限り締切りをなしたが出場分團二十六選手は競技百二十四名武道七十七名計二百一十名で當日の盛會を豫想されて居る因に出場分團は左の如くである

- 平町 泉 渡邊 植田
- 山田 入遠野 上遠野
- 飯野 夏井 高久 豊間
- 小名濱 磐崎 湯本 内郷 好間 赤井 永戸
- 箕輪 澤渡 神谷 草野
- 大浦 四倉 大野 小川

## 平商生劍道

左記七君が昇段

平商劍道部員左記七名は去

## 滿鮮から一筆

(十)

### 釜山公會堂にて伊東一

此の邊馬賊と馬賊との繩張り喧嘩が一年迄あつて互に其村を襲つたり焼打したりしたとか云つて、當時女馬賊等馬に乗り巧みに銃を打ちつゝ逃れたと云ふ話もある沙河の驛にて

蜂の巢の様に銃丸の跡があると云ふ程、この一帯日露沙河大戦の舊戰場だ、安東へ来て數日滞在して安東の市を見物した、鴨綠江も舟で渡つたり橋を歩いて

## 秋冷 一二三度

### 去年より早い 神谷分場發表

石城地方は此處二三日颪風の崩れ以後俄かに温度が低下し激しい秋冷に地方民を驚かして居るが神谷農事試験場で昨六日午後十時より今朝十時迄の氣温調査に依ると最低温度は十三度最高が二十六度七分で昨年同期の温度最低二十度三分、最高二十八度九分と比較すると五六度乃至二三度の低下を見平均温度でさへ一度三分の低下を見たのは從來の

## 戦死者遺骨 あす平通過

今次滿洲事變で名譽の戦死者を遂げた鐵道第一聯隊田村郡岩江村出身畑根上等兵及び旭川歩兵二十六聯隊遺骨二基仙臺獨立守備隊二基山

海關守備隊一基等計六基の遺骨は明八日午後一時五十分平驛着列車にて通過するので平町各種團體名譽職等は驛頭で歡送を行ふと

## 蛭田、茨川改修

### 補助交附の指令

石城郡赤井村茨原川改修工事及び勿來町蛭田川の河川改修工事はいづれも工費一萬圓を以て近く起工すべく縣に補助申請中の處昨六日付を以て兩工事に對して七千五百圓宛の補助を行ふ旨の指令に接した

## 曾我氏別宴

### 十二日聚樂館

今般退職された平第一小學校長曾我直治氏の送別會は來る十二日午後二時より聚樂館に於て青沼鋒太郎、井上茂作、野崎滿藏、萩原義雄、井上貞治郎、小槍山久作、正木貞二郎、矢野泰次郎、津田達造、赤津千里、坂内伊貞の諸氏發起の下に

## 唱歌と遊戯

### 勿來で講習會

石城郡下小學校教員の新教材と新方法による唱歌と遊戯の講習會は來る八日より三日間植田町小學校講堂に於て開催されるが講師は音樂清野健遊戯今泉薫の兩氏で番外として勿來小唄の實演があると

## 梨果品評會

### 十七、八日開催

石城郡農會では本年度の梨果荷造品評會即賣會を來る十七、十八、十九の三日間平署會議室に開く事に決定し

## 密輸を防

### いて居る

鴨綠江の河一重が日本と支那の境を思はせる、見る眼そのものが支那と内地の區別がハッキリ解る、第一河向ふには樹木がない、田がない、朝鮮へ來ると山あり樹木あり河あり田有り懐しい日本造の二階建がある朝鮮人の

### 白衣婆と 初夏の事と

た

## 學校教練查閱

### 警中と平商

警中、平商に於ける學校教練の查閱は來る十月十三日平商、十四日警中各學校庭に於て執行されるが查閱官は二十九聯隊長川村大佐である

## 平保護者會

### 會我氏へ記念品

平町保護者會では本日午後三時より第二校で理事會を開き今般退職された會我第一校長に對する記念品贈呈の件に就いて種々協議をなした

平商生遠足 平商業學校では來る二十九日關井嶽に全校生の秋季遠足運動會を催すと

## 常設館たより

- △平館 トーキ漫画『ワン』の戀、日治時代劇大河内傳次郎 伏見直枝
- 澤村國太郎 吉野朝子主演『薩摩飛脚大會』
- △世界館 新興時代劇雲井龍之助主演『生首供養』新興現代劇森靜子 鈴木澄子 歌川八重子主演『新粧八人女』新興時代劇嵐寛壽郎 歌川八重子 泉清子主演『浪人笠五十三次』

父易興儀豫て病氣の處養生不相叶六日午後十時四十五分永眠致候間御通知に代へ此段謹告仕候

追て葬儀は來る十日午後二時自邸出棺良善寺に於て佛式相營み可申尙遺志により供花放鳥等御辭退申上候

平町四丁目 副 子 百澤才八郎 親戚總代 加藤 丈夫

弊社々長百澤易興儀豫て病氣中の處藥石効無く六日午後十時四十五分永眠致候間此段謹告候也

平町四丁目 株式會社 百澤商店

# 傳染病は根絶

## 上水道竣工後の湯本町

### 拓殖實習に

### 瀧君

### 選抜派遣決定

石城郡湯本町は年々炭礦事業の盛衰から人口の激増を見たが昨年未迄は完全な水道の施設を見なかつた結果炭礦地帯特有の傳染病が年々発生して一ヶ年五六十の患者を出して同町隔離病舎は閉鎖する暇もなかつたが昨年未より完全な上水道事業を完成し優良飲料水を町民に供給せる結果傳染病患者の發生は驚く程激減して平署衛生係りで最近調査した處に依ると昨年十月より現在迄の發生は腸チフス患者一名と云ふ驚偉的な好成绩を挙げたと

石城郡湯本町青年團の瀧孝春君は豫て縣が詮衡中であつた北海道移住者指導に當る拓殖實習生として縣下十五名のうちに選抜された

### 託兒所獎勵金

### 農繁

期中農家の幼兒を眞つて優良な成績を挙げた平町九品寺託兒所に對し昨六日付をもつて縣より十八圓の獎勵金を授與された

# 待合室の賊

## 犯人未だ捕はれず

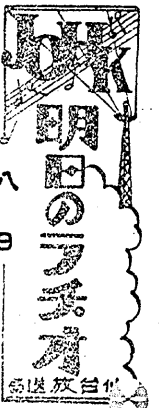
平驛待合室で昨六日午後零時四十五分頃青森行列車を待合せ中の東京日本橋區通三丁目健腦丸本舖丹平商會外交員小山政行(三九)は現金二百六十圓及び水戸川崎第百銀行支店振出し額面二百圓の小切手在中の鹿皮カバンを何者かに窃取されたので急報に依り平署では非常線を開き犯人嚴探中であるが未だ捕縛に至らない

## モヒ患者

### 役場へ保護願ひ

本日午前十時頃一名のモヒ患者が注射液が切れて徒行困難となり平町役場へ救濟方を願出たが同人は新潟縣北魚沼郡上丈村字長島生れ杉下榮(三三)で去る四日茨城縣助川町より双葉郡川内村

各地盆踊り 石城郡夏井村宇山崎地内の不動尊の祭



明日のラジオ 今夜も明日も南東の風晴曇半す

## 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 童謡 阿佐ヶ谷童謡樂園 生徒 ビアノ伴奏員塚正治郎  
後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(二十一) 松前怪談門昌庵異聞 深瀬春一と不老長壽樂 藤田穆博  
後八、〇〇 講談「鳴物入

## 鶏卵二百七十個

### 時報堂の賊懲役二年

### 自白した

既報去月二十九日午前九時頃平町町時報堂時計店根本勇方に於いて時計を買ふが如く装ひ店員の隙を窺ひ金側腕時計三ヶ價格五十七圓餘を窃取逃走した石城郡勿來町字窪田五六赤津勇進(三三)に對する窃盜事件の公判は本日午前十時より平區裁判所に於いて中島判事係り清田檢察立會の下に開廷事實取調の上懲役二年を求刑され判事より即決求刑通り言渡されたが被告は去月二十三日頃より二十八日迄頃石城郡玉川村大字小泉字小屋野野貞方に雇れ中二十八日午前四時頃鶏卵二百六十ヶ、單衣物一枚、帽子足袋、兵古帯等價拾七圓餘を窃盜逃走平町に來た旨を

## 百澤氏逝去

### 葬儀は十日

平町四丁目百澤商店主百澤易與氏は病氣加療中の處六日午後十時遂に永眠した享年七十才氏は平消防創設の功勞者として知られるほか町會議員、所得稅調査委員等の名譽職を初め社會事業への貢獻少なからず一面勤儉力行大いに産を成した仁でその死を惜まれてゐる葬儀は来る十日午後二時大町の別邸出棺良善寺で執行の筈

## 寅吉は懲役二年半

### けふ平區で言渡し

石城郡内郷村大字綴字堀坂六木質宿吾妻己之吉方窃盜前科二犯無職丹野寅吉(三三)が去月二十七日午前一時頃好間村大字中好間杉浦猶三郎方に忍び入り米九升を窃取した外湯本町其他二ヶ所

## 申請の家出

### 親父から捜査願

石城郡内郷村大字宮字平太郎居住坑夫西村龜次郎二男政男(三三)は去る三日親父の給料袋の中より三圓餘を取出し益踊の紛裝費に費つた事が發覺した爲め申請ないしと昨六日行衛を晦したが父親は心配の餘り本日平署に捜査方を願出た

## 下駄を盗む

### 頭火傷で露見

平町長橋町三〇居住田村郡御村館生れ提灯張傷害詐欺前科二犯横田淺吉(三九)は去月六日三丁目下駄商小松三造方の店先で客を装つて履物を見て居た際時價三圓餘の草履一足を窃取逃走したが頭火傷が物を言つて昨六日古鍛冶町を徘徊中平署員に檢擧された

## 日本キリスト

### 管理者は緒形氏

平町十五丁目日本基督平教會前管理者吉田禮治郎氏は豫て病没したので是の程後任選舉の役員會を開會せる結果緒形氏推親氏が管理者に當選した

## 平職業紹介所報告

### 回人を求める方

- △女中 四十才 尋卒 給料面談(平町某)
- △小間使 十六才 尋卒 月五圓(平町某會社)
- △出前持 十八迄 尋卒 給料面談(平町某カフエ)
- △小商店員 十六才 尋卒 給料面談(茨城縣某)
- △回職を求めめる方
- △外交集金 二十六才 高卒 給料面談(平町某)
- △女中 四十七才 無學 給料面談(平町某)
- △女中 十五才 高一修 給料面談(小名濱町某)
- △雜夫 三十六才 中卒 給料面談(大分縣某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演  
山本英春畫

第三十四回 血に飢ゆる村正

親の仇が分る

源「オイ、みち、何だつて然んな物を持出すんだ、お頭がお笑ひになる」  
平「ナニ別に笑ひはいたさん、武士が腰の物を求めるは何よりの事だ、ドレ、拜見をしよう」

源「へ左様でございますか、手前共頼と辨まへませんものですか、夫でも拵へ附で一兩二分でございますか、然しながら小身者では

るので」  
平「馬鹿を云へ是がやれるか、何れぞや貴様に一寸見せた事がある那だ、勝平太の命か、此腰の物かと云ふ位拙者の家重代の五郎正宗の名剣だ」  
み「お頭様アノ正宗なばといふは、澤山ございませうか」  
平「イヤ、正眞の正宗と云つたら、日本中尋ねた所が十振とはあるまいな」  
み「左様でございますか、然うして見れば、寶劍とま申しますか」  
平「如何にも寶劍々々」  
み「如何でございますませう私



とおみちが夫へ差出したのは何か深き了簡がるか、勝平太は一刀をスリと引抜いて、行燈の明火に照して見て居りました、此刀劍類は油の火に限ります、同じ事でも蠟燭の明火では能く分らんさうで、種油に限るといふ事をさる人から聞きました差裏差表を見て居たが勝平太思はず吹出し

然う多分の金を出す事も出来まいたら、此頃には拙者が大小を貴様にやらう」

に少し拜見をさせて下さる譯にはなりませんか」

平「イヤ源十、買ったものなら仕方がないが斯様な刀では豆腐は切れるだ、大根は、少し難かしいぞ」

源「どうも有難う存じます其御腰に差して居るのを下

ば、悪い疫も取付かんといふ位の正宗だ」  
と日頃は口敷も餘り利か、物に油断のない勝平太が、今夜は大酔に乘じま

つて差出す一刀、おみちはその鞘を拂つて様子を見れば、實に光明を放つかに怪しむばかりの銘刀、扱てはと思ひました其場に於て明す譯にもなりまもん、源十郎は下駄の鼻緒をすげ終つて  
源「御頭、お鼻緒が出来ました」  
平「イヤどうも忝ない、夫では歸宅いたさう雨も大分小降になつた様だ」  
源「左様でございますか、御送り申しませうか」  
平「夫には及ばん、ア、どうも今日は酷く酩酊した、コレみち此上ともに夫婦仲睦じくして呉れよ」  
み「有難う存じます」  
其儘に勝平太は立歸る、夫婦の者は顔見合せて、正しく敵の糸之進に相違ないと分りましたが、迂濶に斬り込む譯にもならず第一恩義に預かつて居る人、折を待つて討つやうにと、夫婦は約束をして只々其の時期を窺つて居る中に、不幸にも源十郎が非業の最後を遂げる様な事になりました。  
夫はどういふ譯だと云ふと、福島正則と云ふ人は勇猛濶達の大將なれば、従つて荒小姓といふ者が十八人ございませう、其荒小姓の上席をして居るのが井道竹之助と云つて、力八人に倍し

頗る武藝をよく致しまする正則公お氣に入りのお小姓でございます、然る處に戸田流の武藝の御指南致す戸田新八郎といふ人物がある、藝洲の釜ヶ崎といふ所に父六郎左衛門星殿といふ人隠居して、正則公のお好みに依つて、月六齋にお稽古の爲、廣島本城へ罷り込して御指南を致す、是は戸田流の元祖であります、近頃は伴新八郎が父の名代に參つて御指南申して居る、恰度此の日新八郎御稽古日でございますから出仕いたして、殿を始め面々へ稽古を濟んだる後に、大守に於ては一同へ御酒下され、新八郎も末席にあつて御酒を頂戴して居りました、すると大守御覽になつて、庭前の青石を力勝れたる者に差せといふ仰、第一番に蓮沼小五郎といふ者が是を持ち次に井道竹之助へ仰付けられて、竹之助が此石を差さうとした時に誤つて取落しました。

一冊の代金で  
御希望通りな  
五冊の雑誌が  
自由に讀める  
川崎巡回文庫  
電六三〇番  
(申込次第規則書進呈)

御愛乗下さい  
シボレーに!  
そは先驅者なり

平新川町十九  
外科 産婦人科 木村病院  
電話一六四番  
院長 木村寅次郎  
婦人科 内木宗八  
内臓外科 醫學士  
整形外科  
器泌尿科

旭硝子株式會社製品  
赤菱印  
板ガラス  
硝子 壺  
硝子 食器  
其他 各種  
製造 賣販  
松崎硝子製作所  
平町新川町(電話一四二番)  
仙臺市榮町(電話五九七番)  
支工場

磐城セメント會社特約店  
久全商店  
磐城平町五丁目 電話九番九九番

難波 陸  
内科一般  
醫學博士 難波 陸  
平町大町新川端 電話五〇二